

長期ビジョン BEACON 2030 Illuminating Medicine for Humanity

日本光電は、「病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する」という経営理念のもと、2020年に10年後の2030年に向けた長期ビジョン「BEACON 2030」を策定し、「グローバルな医療課題の解決で人と医療のより良い未来を創造」することを目指しています。

経営理念・長期ビジョン・中期経営計画とグローバル共通価値基準の位置付け



長期ビジョンでは、2030年までにおける全社経営方針として、実現すべき「3つの変革」を掲げ、3年ごとの3つのフェーズに分けて推進しています。

長期ビジョン実現に向けた3つの変革

1 グローバルな高付加価値企業への変革

- 海外事業の高成長と収益性向上を主軸とした事業戦略の推進
- 国内事業における価値提案の高度化および新規事業の育成
- グローバルな事業基盤を活用した新たなビジネスモデルの創出

2 顧客価値を追求するソリューション型事業への変革

- 医療の課題を解決するビジネスモデルへの変革
- HMIを核としてデータから価値を生み出す価値創造モデルの実現

3 オペレーショナルエクセレンスを軸とするグローバル組織への変革

- 全社戦略に基づく組織体制およびガバナンス体制の確立
- グローバルサプライチェーンマネジメントを軸とする開発・生産・販売体制の確立
- 重要な組織機能の集約化 (COE: Center of Excellence) による、グローバルな事業展開力の強化

※ HMI (Human Machine Interface): ヒューマン・マシン・インターフェース。人間と機械の接点。当社の場合、センサ技術、信号処理技術、データ解析技術の総称。

長期ビジョン BEACON 2030 Illuminating Medicine for Humanity

2030年に向けた価値共創の羅針盤

■患者アウトカムと医療経済性の向上に向けて

日本光電が、2030年までに医療課題と社会課題の解決にどのように取り組んでいくのかを表す価値創造モデルが、「価値共創の羅針盤」です。医療現場と向き合うことで潜在的な課題を見出し、長年培ってきた独自技術と知見、そして最先端の技術を融合することで課題解決に資する価値あるソリューションを世界中のパートナーとともに創造し続けます。

●患者アウトカムと医療経済性

私たちが目指す価値創造は、世界共通の医療課題である患者アウトカムと医療経済性の向上を実現することです。

●疾患別・サイト別ソリューション

私たちは疾患別・サイト別の視点で検査から診断・治療・予後に至るまで、患者さん一人ひとりに最適なケアサイクルソリューションの提供を目指します。

●HMI技術と医療機器

HMIは、患者さんと医療とを結びつける大切な接点であり、日本光電のコア・テクノロジーです。私たちが長年培ってきたHMI技術と医療機器（モダリティ）は、患者さんと医療現場へのアクセスを生み出す価値創造の基盤です。

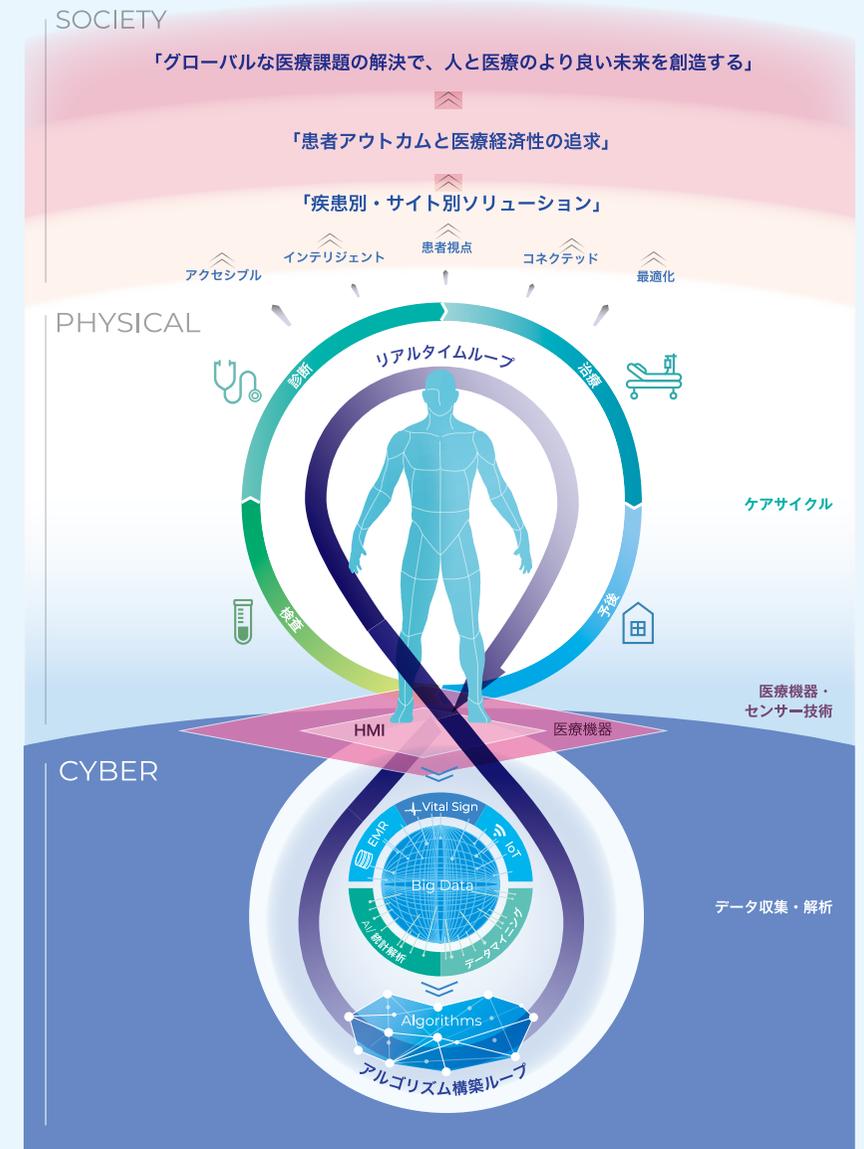
●新たな価値創造～医療現場のデータから価値を生み出す～

新たな価値創造の領域として「情報から価値を生む」ためのデータ統合プラットフォームの構築とアルゴリズムの開発に取り組みます。バイタルサインデータとIoTデータを用いて、電子カルテ等の情報も集約し、ビッグデータを活用するためのプラットフォームを構築します。そして、AIやデータ分析から予知予測等の臨床価値の高いアルゴリズムを開発します。

●臨床ニーズに応えるリアルタイムループ

医療現場で使われているHMI技術と医療機器、そしてビッグデータ解析から生み出された新たなアルゴリズムを結びつけ、臨床ニーズにリアルタイムに応えることのできるソリューションを提供します。

※ HMI (Human Machine Interface) : ヒューマン・マシン・インターフェース。人間と機械の接点。当社の場合、センサ技術、信号処理技術、データ解析技術の総称。



長期ビジョン BEACON 2030 Illuminating Medicine for Humanity

2030年に向けて挑戦する新たな世界観

日本光電は、医療現場と向き合うことで潜在的な課題を見出し、長年培ってきた独自技術と知見、そして最先端の技術を融合することで課題解決に資する価値あるソリューションを世界中のパートナーとともに創造し続けます。



「AED」と「人間」。 最後の距離を、どう縮めるのか？

私たちには、課題があります。

救命率を上げるべく、広くAEDの設置を進めてきましたが救える命との間には、いまだ残された距離があります。

ファーストレスポnderの救命教育、心理的ハードルの軽減、早期発見のためのセンシング技術、アプリによるAEDを持って駆けつける人のネットワークの構築、救命率を上げるためのバイタルサインや倒れた時の状況等のデータの活用…。私たちの小さな一歩の積み重ねによってAEDを使う時の心理的、物理的な壁をなくすことで目指すのは、心臓突然死が3分の1になっている未来。誰もがためらいなくAEDを使用できる大きなムーブメントを起こしていきます。



テクノロジーの進歩。 医療現場のヒューマンエラーはなくせるだろうか？

手術とは、「生きたい」と願う患者さんにとって希望の光。

しかし、いまだ手術中のヒューマンエラーが死亡原因の一つとなっています。特に新興国は先進国と比べ、その死亡率は100から1000倍と推測されています。この深刻な事実も、私たちなら解決できるはず。患者さんのバイタルサインを活用し、安定した麻酔管理が実現できればヒューマンエラーによる死亡率を100分の1にできる可能性がある。医療技術の発展を通じ手術の安全を高めること。更にその技術を、国境を越えて提供し世界中の患者さんに届けること。

それが私たちの大切な役割の1つだと思っております。

長期ビジョン BEACON 2030 Illuminating Medicine for Humanity



穏やかに、人間らしく過ごせる。 そんな集中治療室をつくれるだろうか？

患者さんの早期回復を目指す集中治療室。

しかし、数多くの機械やチューブに囲まれた環境の中で、患者さんは心身を休めることができるのでしょうか。

私たちが目指すのは、「身体」とともに「心」のケアも実現できる空間。患者さんの変化を適切に捉え、早期に治療を施すことができる。ベッドの温度や部屋の明るさも、患者さんの容態に合わせて心地よく調整される。

患者さん一人ひとりに最適な環境をつくり、ご本人、ご家族、そして医療従事者にも優しいICUを実現します。



好きな場所で、好きな時間を過ごす。 医療と暮らしをよりスマートにつなげるだろうか？

家に帰りたくて願う患者さんの数だけ、不安があります。

「病院のような医療を受けられないから、体調が悪化するのではないか。」「緊急時に、家族に迷惑をかけてしまうのではないか。」時と場所にしばられない安心を、私たちの「見守り」技術で実現したい。家にも、病室と同じような良質なケアを届けることができるはず。今後、高齢化により、病とともに生きる人々が増える中で、退院後の再入院率を減らし、患者さんやご家族、病院の負担を軽くしていきたい。

好きな場所で、好きな時間を過ごせる幸せな日常を、私たちは見守り続けていきます。



病院経営の質と効率。患者さんも家族も医療従事者も、 みんなが生き生きとした医療は実現できるだろうか？

生産性を高め、経営改善と向き合う病院。

そして、できるだけ患者さんと向き合う時間をつくりたいと願う多くの医療従事者。私たちが目指すのは、すべての人が満足する「WIN-WIN」の関係性。設置した医療機器から抽出したデータを生かし、人材やリソースの適正配置と機器運用の最適化を実現することで、医療従事者が患者さんに集中できる環境をつくり、アウトカムの質を高める。短い入院生活を経て、スムーズに日常に戻れるようにしていく。

医療効率を追求し、業務の無駄をなくすことで、関わるすべての人の「医療満足度」を高めることにつなげていきます。